

この単純さで

坂多瑩子

「カタチをかかえていくしかないんだよ
私たち にんげんって」
なんという詩的なことばと

耳を傾けていたら

「昨日さ あちこがね」

あちこ と聞こえ

ちがうかな

なんかぐじぐじしながら

空白の輪郭が

あいまいになり

彼らの話は

とつぜん小声になり

よくある愚痴が続いている

よくあると思つたことに

ちがう

なにかが違うはずだ

ときれいにまとめようとすると

あちこ

花菱アチャコ あちこが出てきて

にぎにぎしい風が吹き

こみあげてくる愉快さに

バスの窓をたたく

バスが走っている

その正当性に笑いをこらえる

どうしてかね

にんげんらしい

そう聞こえたかどうか

にんげんたちはちゃんと歩道の上をあるき

あたしもあとを追う この単純さで

夕飯の支度にとりかかり

家族で

豆ご飯を食べる